に迷い信に惑い、心昏く識寡なく、悪重く障多きもの、特に如来の発遣を仰ぎ、必ず最勝の直道に帰して、専らこの行に奉え、ただこの信を崇めよ。

【意訳】

「だから、円に融けあって、この上ない功徳にみちあふれた嘉き名号は、悪を功徳と転ずるたしかな智慧であり、信じ難く金剛のような堅固な信楽は、疑いを除き証を獲さしめる真理である、と知られるのである。」だから、その教えは凡夫が修し易い真の教えであり、愚鈍なものが往き易い近道である。大いなる聖者釈尊がその生涯を通して説かれた教えの中で、この海のように広くて深い功徳におよぶものはない。穢れた世界を捨て浄らかな世界を欣いながら、あれこれと行に迷い、信ずることに惑い、心昏く識ること寡なく、悪重く障り多い者や、特に、往けという如来の勧めの声を

【語註】

・識…対象を認識する作用。ここでは道理をその対象とする
・如来…法から現れた者。ここでは釈尊を指す
・発遣…送り出すこと。釈尊が、この世から浄土に往生せよと勧めること





仰ぎ、必ず最勝の直道に身をすえて、専らこの行に奉え、ただこの信を崇びうやまえ。

【本文】

ああ、弘誓の強縁、多生にも値いがたく、真実の浄信、億劫にも獲がたし。たまたま行信を獲ば、遠く宿縁を慶べ。もしまたこのたび疑網に覆蔽せられば、かえってまた曠劫を径歴せん。誠なるかなや、摂取不捨の真言、超世希有の正法、聞思して遅慮することなかれ。

【意訳】

ああ、弘大な誓いの強縁には、生を幾度かさねても値うことはできず、真実の浄信は、はるかな劫の流れをへても獲ることはできない。たまたま行信を獲たなら、はるかむかしからのご縁があったことを慶ぼう。

【語註】

・強縁…阿弥陀如来の本願の力強いはたらき
・多生…幾度も生まれ変わり、多くの生死を受けること
・値い…であうこと
・億劫…劫は時間の単位。きわめて長い時間
・宿縁…遠い時代から、今ここに自分があることを支えるすべての条件
・疑網…疑いの網
・覆蔽…覆われること
・曠劫…長い年月
・径歴…へめぐること
・摂取不捨の真言…無条件にすべてをすくい取って決して捨てないという如来の真実の誓いの言葉